実務経験のある教員等による授業科目の一覧表（2021）

藤華医療技術専門学校　看護学科

	科目	選択必修の別	実務経験	開講期	単位	時間
1	解剖生理学Ⅲ	必修	○	1年前期	1	30
2	解剖生理学Ⅳ	必修	○	1年後期	1	30
3	解剖生理学演習	必修	○	1年前期	1	30
4	病理学Ⅰ	必修	○	1年後期	1	30
5	病理学Ⅱ	必修	○	1年後期	1	30
6	病理学Ⅲ	必修	○	1年後期	1	30
7	病理学Ⅳ	必修	○	2年前期	1	30
8	病理学Ⅴ	必修	○	2年前期	1	30
9	薬理学	必修	○	1年後期	1	30
	合計				9	270

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅲ（生理学Ⅰ）	1（30）	1年前期	講義
担当教員	彌田　剛（実務経験者）作業療法士	医療機関において作業療法士としての経験がある。さらに生理学エデュケーターとしての専門性と医学部での研究を活かしている。		

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養うことをねらいとする。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．内容

1）呼吸
2）循環
3）消化
4）体液・血液
5）腎機能
6）内分泌

4．授業計画

コマ	内　容
1～2	1）呼吸
3～4	2）循環
5～7	3）消化
8～10	4）体液・血液
11～13	5）腎機能
14～15	6）内分泌

5．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞　系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム
必要時プリント配布
＜参考文献＞　カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学Ⅳ（生理学Ⅱ）	1（30）	1年後期	講義
担当教員	彌田　剛（実務経験者）作業療法士	医療機関において作業療法士としての経験がある。さらに生理学エデュケーターとしての専門性と医学部での研究を活かしている。		

1．授業概要

正常な人体のしくみを肉眼で観察する肉眼解剖学（とくに体表解剖学を重視）と細胞・組織を顕微鏡で検索する組織学を系統的に講義し、人体の構造および生体の機能と恒常性の維持・調節のしくみを学び、看護におけるアセスメント能力の基礎を養うことをねらいとする。

2．到達目標

1）人体各部の名称、形態的特徴および各臓器の機能について説明出来るようにする。
2）正常な人体の機能とその調節のしくみを理解する。
3）生体のしくみの絶妙さに目を向け、生命への畏敬のこころを学ぶ。

3．内容

1）筋系
2）感覚機能
3）運動
4）免疫・生殖
5）静止膜電位と興奮・興奮の伝達
6）中枢神経
7）自立神経

4．授業計画

コマ	内　　容
1～2	1）筋系
3～4	2）感覚機能
5～6	3）運動
7～8	4）免疫・生殖
9～11	5）静止膜電位と興奮、興奮の伝達
12～13	6）中枢神経
14～15	7）自立神経

5．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

6．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞　系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能〔1〕　解剖生理学：医学書院
目で見るからだのメカニズム
必要時プリント配布
＜参考文献＞　カラーでまなぶ解剖生理学：医学書院

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	解剖生理学演習	1（30）	1年前期～後期	演習
担当教員	牧 三 貴 他(実務経験者) 看護師	医療機関において看護師としての経験がある。		

1．授業概要

課題学習および解剖見学をとおして、講義内容の理解を深める。また、人体解剖実習見学では生命の尊厳や医の倫理について考え、看護の道を志す自覚と責任感を培うことをねらいとする。

2．到達目標

1）人体の構造としくみを系統立てて整理し、理解することができる。
2）解剖された人体・臓器を目的を持って見学することにより、人体の構造と機能について理解を深める。
3）献体の意義と生命の尊厳について考える。

3．内容

1）解剖生理学の講義の進度にあわせ、系統別に課題に沿った調べ学習を行い、発表する。(22ｈ)
　・グループ単位で取り組む課題を決める。
　・一つの発表が終わる事に理解度の確認のための演習問題を行う。
2）解剖見学に向けグループ毎に何をどのように見てくるかを明らかにする。
3）解剖見学（４ｈ）･･･ ３月予定
4）解剖見学後のまとめを行う。（４ｈ）
　・見学をとおして分かったこと
　・解剖見学を体験して感じたこと

4．授業計画

コマ	内　　容
1～9	解剖生理学の講義の進度にあわせ、系統別に課題に沿った調べ学習を行い、発表する。 ・グループ単位で取り組む課題を決める。 ・一つの発表が終わる毎に理解度の確認のための演習問題を行う。
10～11	解剖見学に向けグループ毎に何をどのように見てくるかを明らかにする。
12～13	解剖見学
14～15	解剖見学後のまとめ ・見学をとおして分かったこと ・解剖見学を体験して感じたこと

5．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

6．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞　系統看護学講座　専門基礎１　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 ： 医学書院
　　目で見るからだのメカニズム
＜参考文献＞　人体機能学入門（菱沼典子著）：メヂカルフレンド社
　　カラーでまなぶ　解剖生理学 ： 医学書院
　　イラストでまなぶ　解剖学　 ： 医学書院
　　イラストでまなぶ　生理学　 ： 医学書院

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅰ	1（30）	1年後期	講義

担当教員		
	飯尾文昭（実務経験者）医師	医療機関において内科医としての経験がある。
	入江文彦（実務経験者）医師	医療機関において麻酔科医としての経験がある。
	宮原龍司（実務経験者）理学療法士	医療機関において理学療法士としての経験がある。

1．授業概要

臨床医学には、多岐にわたって、病気の診断と治療という二本の柱がある。これらの二本の柱を堅固なものにするには、各々の病気の本質についての深い知識とその理解が必要である。看護行為は病気の治療のなかで重要な位置を占めており、その適切な実践には、その病気の本質に関する十分な知識とその理解が求められる。

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

さまざまな病気を理解するために病気の成り立ちである基本的な病変について、その病態生理・症状・診断を学ぶ。

治療および臨床検査について代表的な手術療法・リハビリテーション療法・放射線療法と検査・病理検査の基礎を学ぶ。

3．内容

＜病理学総論＞…16h

1）病因論
2）先天異常・奇形と遺伝子疾患
3）代謝異常・細胞の障害と適応，変性
4）循環障害
5）炎症と免疫・膠原病
6）腫瘍
7）老化と死

＜治療と臨床検査＞

1）手術療法と麻酔…4h
　①手術侵襲と生体反応
　②麻酔法　・麻酔前の準備　・全身麻酔　・局所麻酔　・麻酔に使用される薬物
　③手術後合併症
2）リハビリテーション療法…6h
　①リハビリテーション概論（目的と種類、物療や検査、治療機器の紹介）
　②運動器系の障害とリハビリテーション（起居移動動作介助）
　③中枢神系障害とリハビリテーション（嚥下訓練、言語訓練）
　④心臓リハビリテーション
　⑤レクリエーション理論
3）放射線療法と放射線検査…2h
　①放射線療法とは
　②放射線療法の適応、単位、放射線障害と治療
　③被爆防護の三原則
　④放射線検査の種類と適応
4）病理検査…2h

４．授業計画

コマ	内　　容	担　当
１～８	<病理学総論> １）病因論 ２）先天異常・奇形と遺伝子疾患 ３）代謝異常・細胞の障害と適応、変性 ４）循環障害 ５）炎症と免疫・膠原病 ６）腫瘍 ７）老化と死	飯尾 文昭
9	<治療と臨床検査> １）病理検査	飯尾 文昭
10～11	２）手術療法と麻酔	入江 文彦
12	３）放射線療法と放射線検査	入江 文彦
13～15	４）リハビリテーション療法	宮原 龍司

５．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

６．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

病理学総論、病理検査 ･････ 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進〔１〕病理学 ： 医学書院

手術と麻酔 ･････････････ 系統看護学講座　専門分野Ⅰ〔４〕臨床看護総論 ： 医学書院
系統看護学講座　別巻１ 臨床外科看護総論 ： 医学書院

リハビリテーション療法 ･･･ 系統看護学講座　別巻５ リハビリテーション看護 ： 医学書院

放射線療法と放射線検査 ･･･ 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学 〔４〕臨床看護総論 ： 医学書院

＜参考文献＞

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅱ	1（30）	1年後期	講義

担当教員		
	糸永一朗（実務経験者）医師	医療機関において整形外科医としての経験がある。
	成松隆弘（実務経験者）医師	医療機関において泌尿器科医としての経験がある。
	木﨑佑介（実務経験者）医師	医療機関において循環器医師としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

運動器・腎泌尿器・循環器の代謝の生理機能を熟知し、その異常としての代表的疾患の病態生理・症状・治療・分類を理解する。

3．内容

運動器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ
1）骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折
2）骨折各論
3）変形性膝関節症・慢性関節リウマチ・人工関節
4）脱臼・捻挫・先天性股関節脱臼
5）末梢神経損傷･上肢帯の疾患･腫瘍・代謝

腎・泌尿器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ
1）腎・泌尿器疾患の解剖生理，症状と病態生理
2）泌尿器疾患の診断・検査
3）急性腎不全・慢性腎不全・透析療法
4）腎炎・尿路感染症
5）尿路結石・腫瘍・男性生殖器の疾患

循環器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ
1）循環器の検査
2）先天性心疾患
3）後天性・虚血性心疾患
4）心筋梗塞・器質性動脈疾患
5）不整脈・高血圧

4．授業計画

コマ	内容	担当
1～5	運動器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折 2）骨折各論 3）変形性膝関節症・慢性関節リウマチ・人工関節 4）脱臼・捻挫・先天性股関節脱臼 5）末梢神経損傷・上肢帯の疾患・腫瘍・代謝	糸永 一朗
6～10	腎・泌尿器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）腎・泌尿器疾患の解剖生理、症状と病態生理 2）泌尿器疾患の診断・検査 3）急性腎不全・慢性腎不全・透析療法 4）腎炎・尿路感染症 5）尿路結石・腫瘍・男性生殖器の疾患	成松 隆弘
11～15	循環器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）循環器の検査 2）先天性心疾患 3）後天性・虚血性心疾患 4）心筋梗塞・器質性動脈疾患 5）不整脈・高血圧	木﨑 佑介

５．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

６．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

運動器系 ･････ 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔10〕運動器 ： 医学書院
腎・泌尿器系 ･･･ 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔８〕腎・泌尿器 ： 医学書院
循環器系 ･････ 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔３〕循環器 ：医学書院

＜参考文献＞

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅲ	1（30）	1年後期	講義

担当教員		
	宇都宮健志（実務経験者）医師	医療機関において消化器内科医としての経験と病院管理者の経験がある。
	森本卓哉（実務経験者）医師	医療機関において内科医としての経験がある。
	坪山明寛（実務経験者）医師	医療機関において血液内科医としての経験と病院管理者の経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

消化器・呼吸器・血液･造血器系の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3．内容

消化器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ

1）消化器疾患における臨床症状
2）慢性肝炎・肝硬変の病因と病態
3）肝臓癌の診断と治療
4）胆石症・慢性膵炎の病態と治療
5）胃癌・十二指腸潰瘍の病態と外科的治療
6）潰瘍性大腸炎・大腸癌の病態と外科的治療
7）肝臓・胆道疾患の病態と外科的治療

呼吸器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ

1）呼吸器疾患における臨床症状
2）気管支疾患・肺炎
3）肺結核症・気管支喘息
4）肺気腫
5）胸膜炎・気胸

血液・造血器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…10ｈ

1）血液の成分・赤血球の生理・血液成分の働き
2）赤血球の疾患（鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・溶血性貧血・巨赤芽球性貧血）に関する、成因・症状・治療・看護の要点について
3）赤血球系の疾患（急性白血病・慢性骨髄性白血病）に関する、成因・症状・治療・看護の要点について
4）リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫・ITP, ATL, AIDS・血友病・DIC）に関する、成因・症状・治療・看護の要点について

4．授業計画

コマ	内容	担当
1～5	消化器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）消化器疾患における臨床症状 2）慢性肝炎・肝硬変の病因と病態 3）肝臓癌の診断と治療 4）胆石症・慢性膵炎の病態と治療 5）胃癌・十二指腸潰瘍の病態と外科的治療 6）潰瘍性大腸炎・大腸癌の病態と外科的治療 7）肝臓・胆道疾患の病態と外科的治療	宇都宮 健志
6～10	呼吸器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）呼吸器疾患における臨床症状 2）気管支疾患・肺炎 3）肺結核症・気管支喘息 4）肺気腫 5）胸膜炎・気胸	森本 卓哉

11～15	血液・造血器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 1）血液の成分・赤血球の生理・血液成分の働き 2）赤血球の疾患に関する成因・症状・治療・看護の要点について 3）リンパ網内系疾患に関する、成因・症状・治療・看護の要点について	坪山 明寛

5．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

6．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

消化器系 …… 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔５〕消化器 ： 医学書院
呼吸器系 …… 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔２〕呼吸器 ： 医学書院
血液・造血器系 ‥ 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔４〕血液・造血器 ： 医学書院

＜参考文献＞

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅳ	1（30）	2年前期	講義

担当教員		
	中野俊久（実務経験者）医師	医療機関において脳神経外科医としての経験がある。
	後藤孔郎（実務経験者）医師	医療機関において内科医としての経験がある。
	藤川陽祐（実務経験者）医師	医療機関において内科医としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

脳神経系・内分泌系・免疫･感染症の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3．内容

脳神経系の代表的な病態と臨床像(症状･検査）および治療…10ｈ

1）神経系の解剖生理・意識障害・失語症
2）脳血管障害の分類と診断基準
3）脳腫瘍・頭部外傷・手術法・反射・高次機能障害
4）ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・筋萎縮性側索硬化症・神経伝導速度の要点について
5）重症筋無力症･進行性筋ジストロフィー・頭痛・髄膜炎・ミエログラフィー・痴呆・てんかん・特定疾患に関する、成因・症状・治療の要点について

内分泌系の代表的な病態と臨床像（症状･検査）および治療…10ｈ

1）内分泌の定義・内分泌臓器・内分泌の恒常性(ﾎﾒｵｽﾀｰｼｽ) 維持のメカニズム
2）視床下部・下垂体・甲状腺・副腎皮質・副腎・性腺・消化管ホルモンに関する、病態生理と代表的疾患の成因・症状・治療
3）代表的な代謝疾患及び糖代謝（糖尿病）・脂質代謝（高脂血症・肥満症）・蛋白代謝（痛風・高尿酸血症）

免疫･感染症の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 …10ｈ

1）免疫機構・免疫不全・アレルギーの分類・診断・治療・アレルギー疾患に関する成因・症状・治療の要点について
2）膠原病総論と各論（RA,SLE,PN,PSS,RF,DM/PM, ベーチェット病，Sjogren症候群など）に関する、成因・症状・治療の要点について
3）感染症の基礎知識（感染症の概念・分類・感染経過・診断・治療）
4）感染症各論（消化器系、脳神経、全身性・局所性感染症）

４．授業計画

コマ	内　　容	担　当
1	脳神経系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 １）神経系の解剖生理・意識障害・失語症	中野 俊久
2	２）脳血管障害の分類と診断基準	
3	３）脳腫瘍・頭部外傷・手術法・反射・高次障害	
4	４）パーキンソン病　脊髄小脳変性症　多発性硬化症	
５～６	５）重症筋無力症　進行性筋ジストロフィー ・頭痛・髄膜炎・ミエログラフィー・痴呆・てんかん ・特定疾患に関する成因・症状・治療の要点に	
7	内分泌系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 １）分泌の定義・内分泌臓器・内分泌の恒常性（ホメオシターシス）維持のメカニズム	後藤 孔郎
8 ９～10	２）視床下部・下垂体・甲状腺・副腎皮質・機能副腎・性腺・消化管ホルモンに関する病態生理と代表的疾患の成因・症状・治療 ３）代表的な代謝疾患及び糖代謝（糖尿病）の要点について 脂質代謝（高脂血症・肥満症）・蛋白代謝（痛風・高尿酸血症）	
11～12	免疫・感染症の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 １）免疫機構・免疫不全・アレルギーの分類・診断・治療 アレルギー疾患に関する成因・症状・治療の要点について	藤川 陽祐
13	２）膠原病総論と各論 （RA,SLE,PN,PSS,RF,DM/PM,ベーチェット病、Ｓjogren症候群など）に関する成因・症状・治療の要点について	
14	３）感染症の基礎知識（感染症の概念・分類・感染経過・診断・治療）	
15	４）感染症各論（消化器系、脳神経、全身性、局所性感染症）	

５．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

６．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

脳・神経系 …… 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔７〕 脳・神経 ： 医学書院
内分泌系 …… 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔６〕 内分泌・代謝 ： 医学書院
免疫・感染症 … 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕 アレルギー・膠原病・感染症 ：医学書院

＜参考文献＞

イラストで学ぶ生理学：医学書院

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	病理学Ⅴ	1（30）	2年前期	講義

担当教員	嵜野祐二（実務経験者）医師	医療機関において眼科医としての経験がある。
	木付暁子（実務経験者）歯科医師	医療機関において歯科医としての経験がある。
	井上貴史（実務経験者）医師	医療機関において産婦人科医としての経験がある。
	中村　聡（実務経験者）医師	医療機関において産婦人科医としての経験がある。
	竹内正久（実務経験者）医師	医療機関において産婦人科医としての経験がある。
		医療機関において耳鼻咽喉科医としての経験がある。
		医療機関において皮膚科医としての経験がある。

1．授業概要

看護学を学ぶ上での基礎として、さまざまな機能障害についての病態生理・症状・診断・治療までの一連の医学的知識を学ぶ。

2．到達目標

感覚器・歯･口腔・女性生殖器の代表的疾患の病態生理・症状・検査・診断・治療を理解する。

3．内容

感覚器系の代表的な病態と臨床像（症状･検査）および治療

＜眼疾患＞…6ｈ

1）眼の構造と機能・症状と病態生理
2）眼疾患の診断と検査・手術療法と薬物療法
3）疾患各論

＜耳鼻咽喉疾患＞…6ｈ

1）耳鼻咽喉系の解剖生理・症状と病態生理
2）耳鼻咽喉系の検査・手術療法と薬物療法
3）疾患各論（唾液腺炎・舌癌・声帯ポリープ・扁桃腺腫瘍・気道異物など）

＜皮膚疾患＞…6ｈ

1）皮膚科総論の解剖生理・検査・治療（湿疹性皮膚炎・ヘルペス・膠原病・悪性腫瘍・ＡＴＬなど）
2）アトピー性皮膚炎，有害動物

＜女性生殖器＞…6ｈ

1）女性生殖器の解剖と病態生理・検査・治療
2）子宮癌・子宮筋腫・乳ガン
3）卵巣疾患・更年期障害の解剖と病態生理・検査・治療

歯・口腔の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療…6ｈ

1）歯，歯肉組織の病態生理と症状・治療
2）口腔粘膜疾患，外傷・腫瘍の分類と診断及び薬物療法
3）奇形・変形・神経疾患の病態生理と治療

４．授業計画

コマ	内　　容	担　当
1	感覚器系の代表的な病態と臨床像（症状・検査）および治療 ＜眼疾患＞ １）眼の構造と機能・症状と病態生理	﨑野 祐二
2	２）眼疾患の診断と検査・手術療法と薬物療法	
3	３）疾患各論	
4	＜耳鼻咽喉疾患＞ １）耳鼻咽喉系の解剖生理・症状と病態生理	
5	２）耳鼻咽喉系の検査・手術療法と薬物療法	
6	３）疾患各論（唾液腺炎・舌癌・声帯ポリープ・扁桃腺腫瘍・気道異物など）	
７～8	＜皮膚疾患＞ １）皮膚科総論の解剖生理・検査・治療（湿疹生皮膚炎ヘルペス・膠原病・悪性腫瘍・ＡＴＬなど）	
9	２）アトピー性皮膚炎・有害動物	
10	＜女性生殖器＞ １）女性生殖器の解剖と病態生理・検査・治療	井上 貴史 中村　聡 竹内 正久
11	２）子宮癌・子宮筋腫・乳ガン	
12	３）卵巣疾患・更年期障害の解剖と病態生理・検査・治療	
13	＜歯・口腔＞ １）歯、歯肉組織の病態生理と症状・治療	木付 暁子
14	２）口腔粘膜疾患、外傷・腫瘍の分類と診断及び薬物療法	
15	３）奇形・変形・神経疾患の病態生理と治療	

５．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

６．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞

感覚器系 …… 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔13〕眼 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔14〕耳鼻咽喉 ： 医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔12〕皮膚 ： 医学書院
歯・口腔系 … 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔15〕歯・口腔 ： 医学書院
女性生殖器 … 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔９〕女性生殖器 ： 医学書院

＜参考文献＞

標準眼科学 ： 医学書院
現代の眼科学 ： 金原出版

専門基礎分野	科目名	単位数（時間数）	開講時期	授業方法
	薬理学	1（30）	1年後期	講義
担当教員	麻生裕規雄（実務経験者） 薬剤師	医療機関において薬剤師としての経験がある。		

1．授業概要

疾病からの回復の促進と患者の安全を守るために必要な基礎的知識および薬物療法における留意点を理解する。

2．到達目標

現在広く使われている医薬品について、その特徴・使い方、等主要な病態の治療に対して、何故、どのような役割を果たしているのか、“薬識”について理解を深める。

3．内容

1）薬理学総論（薬の有効性を高め、安全性を保つには、総括）
2）化学療法薬（抗生物質・抗癌剤・消毒薬等）
3）末梢神経作用薬
4）中枢神経作用薬
5）炎症・抗アレルギー剤（副腎皮質ステロイド・痛風薬等
6）心臓・血管系作用薬
7）呼吸器・消化器・生殖器系作用薬
8）物質代謝作用薬（ホルモン, ビタミン）
9）生物学的製剤・ワクチン
10）救急薬・毒物・薬物中毒とその処置
11）漢方薬
12）検査薬・診断薬

4．授業計画

コマ	内　　容
1	1）薬理学総論（薬の有効性を高め、安全性を保つには、総括）
2	2）化学療法薬（抗生物質・抗癌剤・消毒）
3	3）末梢神経作用薬
4	4）中枢神経作用薬
5	5）炎症抗アレルギー剤（副腎皮質ステロイド・痛風薬等）
6	6）心臓・血管系作用薬
7～8	7）呼吸器・消化器・生殖器系作用薬
9～10	8）物質代謝作用薬（ホルモン、ビタミン）
11	9）生物学的製薬・ワクチン薬等
12～13	10）救急薬・毒物・薬物中毒とその処置
14	11）漢方薬
15	12）検査薬・診断薬

5．評価方法

終講試験（100点満点）によって行う。100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の５段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

6．テキスト・参考文献

＜使用テキスト＞
系統看護学講座　専門基礎５　疾患のなりたちと回復の促進〔２〕薬理学 ： 医学書院
今日の治療薬 ： 南江堂
＜参考文献＞

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表　（２０２１）
藤華医療技術専門学校　助産学科

番号	科目ID	科目名	選択必修の別	実務教員による配置	開講期	単位	時間数
1		助産学概論	必修	○	1年前期	1	30
2		母子の基礎科学	必修	○	1年前期	1	30
3		母子の健康科学	必修	○	1年前期	1	30
総計						3	90

授 業 科 目	助産学概論	専門分野：必修	１単位：30 時間/実講義時間 30 時間	教授方法（講義）
担当者	園田絵里 （実務経験者）助産師	臨床において助産師、看護教員としての実務経験を有している。		
授　業 概　要	助産学の基本概念と助産師の役割・責務を理解し、母子保健活動を主体的に展開するために必要な基本的知識を学習する。			
到　達 目　標	1. 助産の概念を理解する。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を理解し、生涯にわたる女性への健康支援を考える。 3. 人間の性と生殖及び生命に直接かかわる助産師としての生命倫理を考える。 4. 母子保健と助産の変遷並びに現状と動向を学び、今後の母子保健のあり方を考察する。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1～2	4	助産の概念　　助産の概念	園田絵里	講義
3	2	助産に関係する概念		
		リプロダクティブヘルス/ライツ　ジェンダー		講義
		ＤＶ・暴力・性の多様性		
4	2	助産師と法律		
5～6	4	助産師の業務・責務と今後の展望		講義
7	2	助産師の歴史		講義
8	2	古代から江戸時代までの助産の変遷推移		講義
		明治から昭和初期の助産の変遷		講義
9	2	母子保健の動向		
		母子保健の歴史		
		現代の母子保健		講義
		母子保健の動向と諸制度		課題レポート
10	2	助産師と倫理		講義
11～13	6	事例における倫理問題の検討		グループワーク
14	2	グループ発表・講評		
15	2	筆記試験・解説		

成績評価	・終講試験（100 点満点）によって行う。 （ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる） ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の５段階に分割し、上位より　S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。	
教科書・参考図書	我部山キヨ子・武谷雄二　編集　助産学講座１　助産学概論　　医学書院 ・母子保健の主なる統計　・我が国の母子保健　・看護六法　令和元年度版	

授 業 科 目	母子の基礎科学	専門分野：必修	1単位：30時間/実講義時間：30時間	教授方法（講義）
担 当 教 員	河野　康志（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	奈須　家栄（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	西田　正和（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	甲斐健太郎（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	西田　欣広（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	青柳　陽子（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	矢野　光剛（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
	岡本　真実子（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	井上　尚実（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	衛藤　聡（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している	
	佐藤　昌司（実務経験者）医師		臨床において産婦人科医師としての実践経験を有している。	
授　業 概　要	人間の生殖系の構造・機能を理解し、ライフサイクル各期の健康問題及びその対処法について学ぶ。生殖医療の動向について学ぶ。超音波診断について概観する。			
到　達 目　標	1．人間の生殖系の構造・機能を理解する。 2、生殖に影響を及ぼす遺伝や不妊の基礎知識を理解し、生殖医療に関する助産師の倫理を考察する。 3、妊娠に影響する遺伝・免疫・感染についての知識を学ぶ。 4、女性のライフサイクル各期における健康問題を理解する。 5、超音波診断の方法を理解する。			

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1	2	遺伝と遺伝性疾患	奈須家栄	講義
2	2	母子と感染 トキソプラズマ、風疹、サイトメガロウイルス、B19感染	西田正和	
3	2	生殖における解剖と生理	甲斐健太郎	
4	2	性感染症	西田欣広	
5	2	生殖補助医療	河野康志	
6	2	母子と免疫	青柳陽子	
7	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患（悪性）	矢野光剛	
8	2	女性のライフサイクル各期に起こる主な疾患（良性）	西田正和	
9	1	筆記試験	西田正和	

1～2	4	臨床検査	佐藤昌司	講義
3～4	4	超音波診断の基礎 　　胎児発育の見方・推定体重 　　胎児各部の観察 　　超音波検査の倫理的側面		講義
5～6	4	超音波機器の取り扱いと実際 　　画像表示の見方・基本姿勢・機器取り扱いの注意点 会陰縫合演習		演習
7	1	筆記試験		
成績評価		・終講試験（100 点満点）によって行う。 （ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる） ・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の５段階に分割し、上位より　S、A、B、C、D の評定とする。 ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。		
教科書・参考図書		我部山キヨ子編集　助産学講座２　母子の基礎科学　医学書院 高橋克幸・武谷雄二監修　助産師・看護師のための超音波画像診断　南江堂		

授 業 科 目	母子の健康科学	専門分野：必修	１単位：30 時間/実講義時間 34 時間	教授方法 （講義・演習）
担当者	岡本真実子（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している。		
	井上尚実（実務経験者）医師	臨床において産婦人科医師の実践経験を有している。		
	望月聡（実務経験者）教授	大学教授として、教育及び栄養学の専門家としての実務経験を有している		
	阿部文香（実務経験者） 助産師	臨床において助産師かつ日本赤十字救急法指導者としての実践経験を有している。		
	麻生清子（実務経験者） 歯科衛生士	歯科診療の現場において歯科衛生士かつ歯科衛生士養成教育の実践経験を有している。		
	上屋　香（実務経験者） アロマセラピスト	JAS/JAA/AEAJ 各アロセラピー協会認定のアロマインストラクター、メディカルアロマ実践とセラピスト養成の実践経験を有している。		
授　業 概　要	母子の置かれている環境を理解し、母子を取り巻く健康問題や健康に関する基礎知識を学ぶ。			
到　達 目　標	１．母子がおかれている生活環境・環境汚染等について理解する。 ２．母子の栄養、特に妊婦・授乳婦・乳幼児期の栄養の重要性を理解し、健康教育支援のための基礎を学ぶ。 ３．薬剤が母子に与える影響について理解する。 ４．充実したマタニティライフを送るための健康教育の内容を理解し支援するための基礎を学ぶ。			

授業計画

回	時間	内容	担当教員	教授学習方法
1 2 3	2 2 1	母子と生活環境　生活環境と環境汚染　　母子と化学物質 母子と嗜好品・薬剤 筆記試験	岡本真実子 井上尚実	講義 講義
1～2 3～4 5	4 4 1	母子と栄養 栄養と栄養素　母子の栄養の課題　望ましい生活 栄養摂取基準　授乳婦の栄養　　乳児の栄養 乳児、思春期の栄養　妊産婦の病態栄養 レポート	望月　聡	講義 講義
1～2	4	母子の歯科保健 妊婦における口腔ケアの実地指導 歯周病と全身疾患の関係	麻生清子	講義
1～5 6	10 2	母子と運動 妊婦の運動療法（マタニティビクスとは） マタニティビクスの実技、構成　　グループ発表 小児救急法	阿部文香	講義 演習 レポート 講義・演習
1～2	4	妊産婦のためのアロマテラピー	上屋　香	講義 演習
成績評価		・終講試験（100 点満点）によって行う。 （ただし、所定のレポート提出を済んだものが試験を受けることができる） ・提示された課題レポートの提出による評価によって行う。		

	・100 点満点で表された成績を、100～90 点、89 点～80 点、79 点～70 点、69 点～60 点、60 点未満の５段階に分割し、上位より　S、A、B、C、D の評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、F で表す。	
教科書・参考図書	我部山キヨ子　編集　　助産学講座３　母子の健康科学　　医学書院 講師配布テキストによる	

藤華医療技術専門学校　理学療法学科　教育課程(2021)

科目	選択必須の別	実務教員による配置	開講期	単位	時間数
運動療法学Ⅰ	必須	○	2年前期	2	60
運動療法学Ⅱ	必須	○	2年後期	1	30
成人神経系理学療法学Ⅰ	必須	○	2年前期	2	60
成人神経系理学療法学Ⅱ	必須	○	2年後期	2	60
小児神経系理学療法学	必須	○	2年後期	2	60
合計				9	270

基本情報	1 年次	専門分野	2単位（60 時間）	授業方法：講義、演習
科目名	運動療法学Ⅰ			
担当教員	市川　泰朗 （実務経験者）	理学療法士として 7 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 20 年ほどの経験を有す。		
	濵砂　敦子 （実務経験者）	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		

1.　講義概要

運動療法の基礎的な知識と技術を習得する。

2.　一般目標

①　運動療法の概念を理解する。

②　代表的手技の特徴ならびに障害に対する運動療法の適応を理解する。

③　解剖・生理・運動学知識を基に運動の仕組みを説明できる。

3.　評価方法

筆記試験・ﾚﾎﾟｰﾄ・小ﾃｽﾄ

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4.　テキスト・参考書等

運動療法Ⅰ　神陵文庫

「運動療法学　各論」医学書院

5.　授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	16	筋力維持増強運動　3
2	運動療法の歴史・定義・目的	17	筋力維持増強運動　4
3	訓練肢位・運動療法機器	18	持久力増強運動　1
4	運動療法機器2・運動療法の原則	19	持久力増強運動　2
5	基本的運動　1	20	持久力増強運動　3
6	基本的運動　2	21	全身調整・リラクゼーション
7	前期まとめ	22	協調性改善アプローチ　1
8	中間ﾃｽﾄ	23	協調性改善アプローチ　2
9	ﾃｽﾄ解説	24	神経生理学的アプローチ　1
10	関節可動域運動　1	25	神経生理学的アプローチ　2
11	関節可動域運動　2	26	神経生理学的アプローチ　3
12	関節可動域運動　3	27	神経生理学的アプローチ　4
13	関節可動域運動　4	28	神経生理学的アプローチ　5
14	筋力維持増強運動　1	29	高齢者の運動療法
15	筋力維持増強運動　2	30	後期まとめ

基本情報	2年次	専門分野	1単位（30 時間）	授業方法：講義、演習
科目名	運動療法学Ⅱ			
担当教員	林　貴紀 （実務経験者）		理学療法士として 15 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 8 年の経験を有す。	

1.　講義概要

運動療法学Ⅰを基礎として、これをさらに発展させた内容である。本科目では臨床場面で運動療法を用いることを想定し、対象者の病態、病期に応じた運動療法を選択できることと、その理由を説明できることを目指す。また、適切な運動療法の実施に必要な触診技術の向上と、基本的な運動療法が適切に実施できることを目指す。

2.　一般目標

①　病態、病期に応じた運動療法を選択することができる。また、その理由を説明できる。

②　運動療法の実施に重要な部位を正確に触診できる。

③　基本的な運動療法が適切に実施できる。

3.　評価方法

筆記試験（40%）、小テスト（50%）、課題（10%）

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4.　テキスト・参考書等

「運動療法のための機能解剖学的触診術」、「動作分析　臨床活用講座」：メジカルビュー

「実践PTノート運動器障害の理学療法」：三輪書店、「理学療法テキスト　運動療法学」：中山書店

5.　授業計画

ｺﾏ	教授内容
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ、運動療法の基礎
2	コンディショニングのための手段、触診練習
3	関節可動域制限に対する運動療法、触診練習
4	筋機能障害に対する運動療法、触診練習
5	協調性障害に対する運動療法、触診練習
6	基本動作能力、歩行能力獲得のための運動療法
7	全身持久力改善のための運動療法
8	バランス障害に対する運動療法
9	がん患者に対する運動療法（1）
10	がん患者に対する運動療法（2）、触診練習
11	腎機能障害、熱傷患者に対する運動療法
12	産科領域、健康増進のための運動療法、触診練習
13	高齢者の運動療法（1）
14	高齢者の運動療法（2）
15	まとめ

基本情報	2年前期	専門分野	2単位（60 時間）	授業方法：講義、演習
科目名	成人神経系理学療法学Ⅰ			
担当教員	福田　旨宏 （実務経験者）	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	濵砂　敦子 （実務経験者）	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		

1.　講義概要

脳血管障害に対する一般的な理学療法について、目的・意義・理論的背景などを学習する。後期：

2.　一般目標

(1)　脳の機能と運動障害の関係についての整理

(2)　脳の損傷についての知識の獲得

(3)　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝを行う意義についての理解

(4)　一般的なﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ技術の獲得

3.　評価方法

筆記試験・提出課題（定期試験70％、小ﾃｽﾄ20％、課題10％）

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4.　テキスト・参考書等

理学療法テキスト　神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ、ベッドサイドの神経のみかた

病気がみえる　vol.7　脳と神経、神経内科学

5.　授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ・中枢神経疾患総論	16	高次脳機能障害（1）
2	中枢神経系の機能解剖	17	高次脳機能障害（2）
3	脳損傷の定義と病態	18	高次脳機能障害（3）
4	脳損傷回復のメカニズム	19	CVA 片麻痺患者の合併症
5	脳血管障害のﾘｽｸ管理とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ	20	CT 画像のみかた①
6	脳血管障害の運動機能障害	21	CT 画像のみかた②
7	脳血管障害に対する理学療法（1）	22	脳血管障害患者の予後予測
8	脳血管障害に対する理学療法（2）	23	脳外傷・脳腫瘍について
9	運動障害に対する評価（1）	24	脳外傷・脳腫瘍の理学療法
10	運動障害に対する評価（2）	25	大脳基底核の機能解剖・パーキンソン病総論
11	運動障害に対する評価（3）	26	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病の評価（1）
12	運動療法（1）	27	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病の評価（2）
13	運動療法（2）	28	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病の運動療法（1）
14	運動療法（3）	29	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病の運動療法（2）
15	運動療法（4）、実技演習	30	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病の運動療法（3）　実技演習
			前期試験

基本情報	2年後期	専門分野	2単位(60 時間)	授業方法:講義、演習
科目名	成人神経系理学療法学Ⅱ			
担当教員	福田　旨宏 (実務経験者)	理学療法士として 11 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 16 年ほどの経験を有す。		
	濵砂　敦子 (実務経験者)	理学療法士として 14 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 2 年の経験を有す。		
	宮原　龍司 (実務経験者)	理学療法士として 12 年の臨床経験があり、その実務経験を生かした講義・演習をおこなう。教員として 22 年ほどの経験を有す。		

1.　講義概要

CVA 以外の中枢神経疾患に対する、一般的な理学療法を学習し、その目的・意義・理論的背景などを理解する。また脊髄損傷の概要を学び、脊髄損傷の病態、障害構造を知る。

2.　一般目標

脊髄損傷に対する理学療法介入の原則と方法を理解する。脊髄損傷に対する動作分析から治療計画立案の流れを学ぶ。脊髄損傷の病態生理について理解した上で、治療学の基礎を学ぶ。

また、前期に続き脳損傷による運動障害について、その知識を学びリハビリテーションを行う意義について理解する。

3.　評価方法

筆記試験・小ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4.　テキスト・参考書等

PT マニュアル　脊髄損傷の理学療法、理学療法テキスト　神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ

ベッドサイドの神経のみかた、病気がみえる　vol.7　脳と神経、神経内科学

5.　授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	前期試験解説	16	協調運動障害の評価①
2	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　第 1 章　脊髄損傷の基礎知識	17	協調運動障害の評価②
3	第 2 章　理学療法評価(1)　:　概説	18	失調症の運動療法(1)
4	第 2 章　理学療法評価(2)　:　自律神経障害	19	失調症の運動療法(2)
5	第 2 章　理学療法評価(3)　:　ADL 評価	20	神経筋疾患の理学療法(1)
6	第 2 章　理学療法評価(4)　:　動作分析	21	神経筋疾患の理学療法(2)
7	第 3 章　肺理学療法	22	神経筋疾患の理学療法(3)
8	第 4 章　車椅子処方と練習	23	神経筋疾患の理学療法(4)
9	第 5 章　(1)　急性期、回復初期理学療法	24	神経筋疾患の理学療法(3)
10	第 5 章　理(2)　回復後期理学療法	25	神経筋疾患の理学療法(4)
11	第 6 章　排尿・尿路管理	26	ケーススタディ(1)
12	第 8 章　脊損とスポーツ、第 9 章　脊損と自動車運転	27	ケーススタディ(2)
13	脊髄損傷　まとめ	28	ケーススタディ(3)
14	小脳の機能解剖	29	ケーススタディ(4)
15	協調運動障害について	30	ケーススタディ(5)

基本情報	2年後期	専門分野	2単位（60 時間）	授業方法：講義・ﾚﾎﾟｰﾄ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ発表
科目名	小児神経系理学療法学			
担当教員	牧　菜奈 （実務経験者）	理学療法士として 10 年の臨床経験を有す。発達障害領域において理学療法士として豊富な知識と経験を有する。		
	那須　恭子 （実務経験者）	16 年の臨床経験を有す。発達障害領域において理学療法士として豊富な知識と経験を有する。10 年の講師歴あり。		

1.　講義概要

脳性麻痺を主とした小児疾患の障害像を学ぶとともに、運動療法学で習得した基礎知識と技術を用い、理学療法技術の習得を教授する。

2.　一般目標

正常発達を含めた正常児に関する理解を深めた上で、生活指導の重要性を認識し神経発達学的アプローチの手技ができる。

3.　評価方法

筆記試験

※100 点満点で表された成績を、100～90 点、89～80 点、79～70 点、69～60 点、60 点未満の 5 段階に分割し、上位よりS、A、B、C、Dの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Fで表す。

4.　テキスト・参考書等

こどもの理学療法　　脳性麻痺児 24 時間姿勢ケア

5.　授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	16	重症心身障がい児
2	正常発達	17	精神発達遅延
3	正常発達実技	18	まとめ
4	正常発達実技	19	疾患別発表
5	正常発達実技	20	疾患別発表
6	正常発達実技	21	発表・まとめ・摂食
7	疾患別	22	摂食・重心
8	筋ジス・ダウン症候群	23	正常発達　評価と演習①
9	脳性麻痺	24	正常発達　評価と演習②
10	脳性麻痺	25	正常発達　評価と演習③
11	低出生体重児	26	正常発達　評価と演習④
12	筋ジス・ダウン症候群・低出生児まとめ	27	姿勢反射　評価と演習①
13	評価と治療	28	姿勢反射　評価と演習②
14	評価と治療	29	姿勢反射　評価と演習③
15	2分脊椎	30	姿勢反射　評価と演習④

藤華医療技術専門学校　作業療法学科　教育課程(2021)

	科目	選択必須の別	実務教員による配置	開講期	単位	時間数
1	保健体育	必須	○	1年前期	1	30
2	解剖学Ⅰ	必須	○	1年前期	2	60
3	解剖学Ⅱ	必須	○	1年後期	2	60
4	生理学Ⅰ	必須	○	1年前期	2	60
5	生理学Ⅱ	必須	○	1年後期	2	60
48	合計				9	270

基本情報	1年前期	基礎分野	1単位（30時間）	授業方法（実習）
科目名	保健体育			
担当教員	川本紘美 （実務経験者）	理学療法士として11年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		
	菅原志津穂	理学療法士として16年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。		

１．講義概要

ピラティスというドイツ生まれのボディワークは、体操により機能的な動きと美しい姿勢の獲得が可能となる。姿勢は日常の健康を映す鏡であり、不良姿勢は印象などの見た目が悪いだけでなく、腰痛など種々の不定愁訴に繋がり、痛みや違和感によるQOLの低下やスポーツパフォーマンスの低下を引き起こす。この授業では、ピラティスを実践することで、臨床で必要な知識や機能的な身体の動きを学ぶ。

２．到達目標

身体の動作法を獲得し、自身で実践できるようになる。

３．成績評価

・課題や講義への取り組み、筆記試験等を総合的に評価する。

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

４．テキスト・参考書等

必要に応じてプリント配布

５．授業計画

ｺﾏ	教授内容
1	ピラティス概論
2	正しい姿勢とは
3	姿勢の診かた
4	ショルダーブリッジの運動学
5	筋肉の働き（体幹）
6	座位・立位のエクササイズ
7	筋肉の働き（下肢）
8	ピラティスエクササイズ実習
9	筋肉の働き（上肢）
10	ピラティスエクササイズ実習
11	プランク・四つ這い
12	ピラティスエクササイズ実習
13	異常姿勢の見分け方
14	栄養補給と運動
15	インターバルトレーニング

基本情報	1年前期	専門基礎分野	2単位（60時間）	授業方法（講義）
科目名	解剖学Ⅰ			
担当教員	藤倉義久			
	北村裕和			
	福田旨宏 （実務経験者）	理学療法士として11年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として16年ほどの経験を有する。		
	藤原　一 （実務経験者）	作業療法士として8年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年ほどの経験を有する。		

１．講義概要

解剖学は、理学療法士作業療法士を目指す者にとって人体を構成する諸器官の正常な形態を系統だて学ぶ最も重要な専門基礎科目である。

２．到達目標

人体の発生から組織学、骨格、関節と靭帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系と概説し人体の諸器官の精巧な形態と多様性に基づく基本的な機能を学習していく。

３．成績評価

・課題や講義への取り組み、筆記試験等を総合的に評価する。

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

４．テキスト・参考書等

解剖学（標準理学療法・作業療法学）　肉単　語源から覚える英単語集

５．授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	解剖学総論　人体の構成	16	内臓学　感覚器（2）
2	解剖学総論　人体の構成	17	骨学総論
3	解剖学総論　解剖学用語	18	骨学各論（1）
4	発生学　系統発生	19	骨学各論（2）
5	内臓学　循環器（1）	20	関節・靭帯学総論
6	内臓学　循環器（2）	21	関節・靭帯学総論
7	内臓学　循環器（3）	22	関節・靭帯学各論　頭頸部
8	内臓学　循環器（4）	23	関節・靭帯学各論　脊柱
9	内臓学　消化器学（1）	24	関節・靭帯学各論　上肢帯、肩、体幹
10	内臓学　消化器学（2）	25	関節・靭帯学各論　肘関節
11	内臓学　呼吸器系	26	関節・靭帯学各論 肘・前腕
12	内臓学　内分泌系	27	関節・靭帯学各論　手関節・手指
13	内臓学　泌尿器系	28	関節・靭帯学各論　骨盤・股関節
14	内臓学生殖器	29	関節・靭帯学各論　膝関節
15	内臓学　感覚器（1）	30	関節・靭帯学各論　下腿、足関節
			テスト

基本情報	1年後期	専門基礎分野	2単位（60時間）	授業方法（講義・実習）
科目名	解剖学Ⅱ			
担当教員	藤倉義久			
	北村裕和			
	福田旨宏 （実務経験者）	理学療法士として11年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として16年ほどの経験を有する。		
	藤原　一 （実務経験者）	作業療法士として8年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年ほどの経験を有する。		

１．講義概要

骨格をなすそれぞれの骨、その構造を模型を通して理解し、全身の構成を学ぶ。
解剖見学実習を通して、人体の構造と機能を概観する。
御献体の意義と倫理観を養う。

２．到達目標

全身の骨格の形態と名称を理解する。
人体の組織学、骨格、関節と靱帯、筋系、神経系、循環器系、内臓系を御献体を見て触れて理解を深める。

３．成績評価

・課題や講義への取り組み、筆記試験等を総合的に評価する。
・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

４．テキスト・参考書等

解剖学（標準理学療法・作業療法学）肉単　語源から覚える英単語集

５．授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	解剖学総論　筋学総論1	16	筋・神経（筋の支配神経）
2	筋学総論2	17	神経系　各論　中枢神経1
3	筋学総論3	18	神経系　各論　中枢神経2
4	筋学総論4	19	神経系　各論　中枢神経3
5	神経系総論1	20	神経系　各論　中枢神経4
6	神経系総論2	21	神経系　各論　末梢神経1
7	筋学　各論　下肢帯1	22	神経系　各論　末梢神経2
8	筋学　各論　下肢帯2	23	神経系　各論　末梢神経3
9	筋学　各論　下肢帯3	24	神経系　各論　末梢神経4
10	筋学　各論　体幹1	25	筋・筋膜　ｱﾅﾄﾐｰﾄﾚｲﾝ
11	筋学　各論　体幹2	26	ｱﾅﾄﾐｰﾄﾚｲﾝを応用した肩関節の治療
12	筋学　各論　体幹3	27	ｱﾅﾄﾐｰﾄﾚｲﾝを応用した腰痛の治療
13	筋学　全体復習1	28	ｱﾅﾄﾐｰﾄﾚｲﾝを用いた自律神経と運動療法
14	筋学　全体復習2	29	解剖見学実習オリエン
15	神経系各論　神経伝導路	30	解剖見学実習

基本情報	1年前期	専門基礎分野	2単位（60時間）	授業方法（講義）
科目名	生理学Ⅰ			
担当教員	彌田　剛 （実務経験者）	作業療法士として9年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年の経験を有する。		

１．講義概要

生理学では人体の諸構造の持つ機能とそれらの結びつきを学ぶ。

２．到達目標

生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。

３．成績評価

・課題や講義への取り組み、筆記試験等を総合的に評価する。

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

４．テキスト・参考書等

シンプル生理学 第7版

５．授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	生理学総論	16	排便機構
2	細胞（DNAを中心に）	17	血液の機能
3	静止膜電位	18	免疫機構
4	活動電位	19	心臓と循環1
5	興奮の伝導	20	心臓と循環2
6	情報の伝達	21	末梢循環と調節
7	中枢神経総論	22	体温調節
8	視床下部と辺縁系	23	呼吸機能1
9	自律神経・ホルモン総論	24	呼吸機能2
10	下垂体	25	腎機能1
11	甲状腺・副腎	26	腎機能2
12	膵臓・性腺	27	排尿機構
13	栄養と代謝	28	体液とその調節1
14	消化とその調節	29	体液とその調節2
15	消化と吸収	30	試験と解説

基本情報	1年後期	専門基礎分野	2単位（60時間）	授業方法（講義・実習）
科目名	生理学Ⅱ			
開講年次	彌田　剛 （実務経験者）	作業療法士として9年の病院勤務があり、その実務経験を活かした講義・演習を行なっている。教員として20年の経験を有する。		

１．講義概要

講義で学んだ内容について、実習を通して理解を深める。

２．到達目標

生命を維持するために諸器官はそれぞれ特有な機能を持ちそれらが絶えず相互に調整し合うことで、人体の内部環境の維持と外部環境への適応とを図っている。生理学ではこれらの機能の発現様式と機序について体系的に学習する。加えて、実習を通して人体の仕組みを理解することができる。

３．成績評価

・課題や講義への取り組み、筆記試験等を総合的に評価する。

・100点満点で表された成績を、100～90点、89～80点、79～70点、69～60点、60点未満の5段階に分割し、上位よりＳ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの評定とする。ただし、受講途中で中止した場合は評定不能とし、Ｆで表す。

４．テキスト・参考書等

シンプル生理学・実習書

５．授業計画

ｺﾏ	教授内容	ｺﾏ	教授内容
1	筋肉の分類と構造1	16	視覚
2	筋肉の分類と構造2	17	嗅覚・味覚
3	骨格筋の収縮機構1	18	実習1
4	骨格筋の収縮機構2	19	実習2
5	筋紡錘とゴルジ腱器官	20	実習3
6	脊髄反射・姿勢反射	21	実習4
7	大脳皮質（機能局在）	22	実習5
8	大脳と運動	23	実習6
9	大脳基底核と運動	24	実習7
10	小脳と運動	25	実習8
11	感覚総論	26	実習9
12	体性感覚・内臓感覚	27	実習10
13	深部感覚	28	実習11
14	聴覚	29	実習12
15	前庭感覚	30	テストと解説